

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

- 基礎・基本を重視し、よくわかる授業を展開する。
- 児童の学ぶ意欲を引き出し、自ら考え、主体的に判断・行動できる力を育てる学習指導の充実・改善を図る。
- 友達の見聞き、自分の考えを的確に伝える力を育成する。

学力向上推進員
 教諭 1年主任 小笠 広美
 算数主任 桑平 尚美

委員 校長 近藤 真一 教頭 島尾 雄大
 教諭 教務主任 篠原 敏文 6年主任・研修主任 新田 望 5年主任・研修主任 林 寛子
 4年主任・国語主任 奥谷 麻里亜 3年主任 湯浅 佳世 2年主任 森 郁子
 生徒指導主任 横手 隆介 人権教育主事 村田 亘

校長

近藤 真一

【取組状況の把握について】

管理職や教員相互による授業参観・校内研修での報告・情報交換など様々な機会を捉えて取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習のきまりを守り、まじめに課題に取り組もうとする児童である。基本的な漢字の読み書き、計算は、ほぼ習得できている。 ●既習内容がほぼ定着している児童とまだ不十分な児童との差が大きく、二極化傾向が見られる。	・「富小っ子授業のルール 10 の約束」を守ることができる。 ・得た知識や技能を学習や生活に生かすことができる。 ・タブレットを学習の場で効果的に活用することができる。	・「富小っ子授業のルール 10 の約束」の内容を徹底し、知識・技能の習熟を図る。 ・発問を工夫・精選し、獲得している知識や技能を生かす場面を設定する。 ・デジタル教科書やタブレットを活用し、主体的な学習の一助とする。 ・個に応じた指導支援の工夫をする。	・月の目標を掲げたり、学年で重点を置きたい目標を掲げたりして「富小っ子授業のルール 10 の約束」の指導を継続する。 ・単元に合わせてタブレットを効果的に使い、振り返ることができた。	・「富小っ子授業のルール 10 の約束」は声掛けをしないと難しいときもあったが概ね守ることができた。 ・獲得している知識や技能を生かすことができつつある。 ・タブレットは、前学年より活用したり、できることが増えたりした。	・「富小っ子授業のルール 10 の約束」の指導を今後も継続していく。 ・教師側から学習と生活をつなぐ場面をもっと設け、言語化していくように働きかけていく。 ・タブレットを活用するために、使いやすい環境を整えていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを書いたり発表したりでき、それをもとに話し合い、共有することができる。 ●筋道を立てて話したり、友達の見聞きと比較して考えを述べたりすることは苦手な児童がいる。	・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現できる。 ・友達の見聞きを尊重し、比較しながら、自分の考えを広めたり深めたりできる。 ・対話的な学習の場では、ノートやタブレットを活用できる。	・信頼関係を築きながら、少人数グループや学級全体の中で自分の考えを豊かに表現する機会を設定する。 ・考えの伝え方や学び合いの仕方について可視化して提示する。 ・タブレットの活用方法を研修し、対話的な学びを拡充する。	・考えの伝え方や学び合いの仕方を可視化することで、発表の仕方、聞き手が身に付きはじめている。 ・自分の考えを書いたり、発表のモデルを提示して伝える時間を設けたりするのも効果的であった。 ・自らの主張と理由を明確にして伝えられるように指導を継続する。	・少人数では、自分の考えを表現することができつつある。 ・自ら進んで比較するのは難しいこともあるが、教師の働きかけによってそうした視点を持つ児童も増えている。 ・学年による違いはあるが、単元によって考えを伝えるツールとしてタブレットを活用できる児童が増えてきた。	・少人数から全体へと広げることで、全員が考えを表現できる機会を確保していく。 ・考えの伝え合い方や学び合いの仕方のモデルを示し、働きかけていく。 ・情報活用能力の育成に全学年で取り組み、ツールとして活用できるような素地を養う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して興味・関心を持ち、一生懸命に問題解決を図ろうとする。 ●与えられた課題や指示されたことはまじめに取り組むが、自分から課題を見つけ、見直しを持って問題を解決しようとする児童が少ない。	・自ら課題を見つけ、見直しを持ち、主体的に課題解決に取り組むことができる。 ・疑問に思ったことを解決する方法を見つけたり選んだりできる。 ・学習内容を理解し、見方や考え方を働かせて、より深く考えることができる。	・学習活動を見直し、課題を解決し、振り返るPDCAサイクルの実践を図る。 ・多様な意見や考えを出しやすくなるような学習形態を工夫する。 ・児童が主体的に取り組めるような発問の工夫や学習活動を設定する。	・学習の流れを定着させ、単元の終末には、学びを振り返る活動を設定し、次の単元に学びをつなげることができるよう工夫する。 ・単元に応じて多様な学習形態を取り入れ、児童が見直しをもって取り組めるように教材研究を続ける。	・PDCAサイクルの流れと基礎は定着できている。 ・自ら課題を見つけることが難しいため、振り返りを上手く活用する必要がある。	・個人に合った支援を行い、全体の基礎・基本を定着させることで自信を持たせる。 ・主体的な取り組みに対して称賛しながらやる気を高める。 ・振り返りの時間を確保していく。

令和5年度 学力向上ロードマップ

